

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和元年度病害虫防除情報第5号

トビイロウンカの発生状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

警報発表後もトビイロウンカの発生量が増加しており、一部地域に坪枯れが確認されています。

1. 作物名 普通期水稲
2. 病害虫名 トビイロウンカ
3. 発生状況

(1) 県では注意報第4号（令和元年8月1日付）、警報第1号（8月19日付）を発表し、トビイロウンカに対する防除徹底を啓発したところである。

しかし、8月下旬に実施した巡回調査の結果、8月中旬調査時より発生地域は拡大し、生息密度も急激に高まっている（図1、2）。

(2) 巡回調査における発生面積率100%は過去10年間で最も多く、株当たり虫数5.0頭は平成25年に次いで多い（図3、4）。特に西諸県地域では株当たり虫数が9.9頭と非常に多くなっており、一部地域では8月下旬から坪枯れが確認されている（表1、図6）。

(3) 産卵数の多い短翅型雌成虫の株当たり虫数は県全体平均で0.3頭であり、要防除水準に達している（表1）。

（要防除水準：8月上旬～9月中旬の短翅型雌成虫株当たり0.2頭）

(4) 鹿児島地方気象台が8月29日に発表した向こう1ヶ月の気温（8月31日～9月30日）は、平年並または高い確率ともに40%と予想されていることから、本種の増殖に好適な状況がしばらく続くと考えられる。

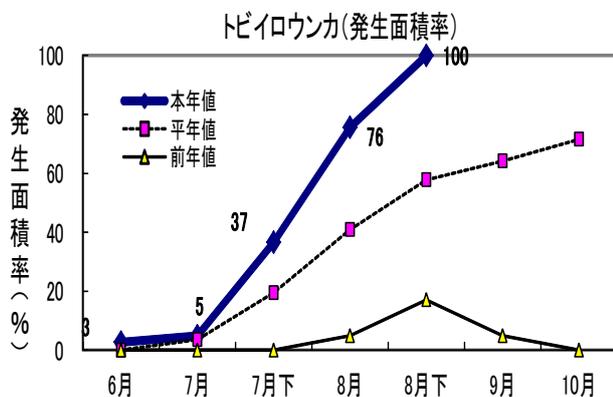


図1 発生面積率の月別推移

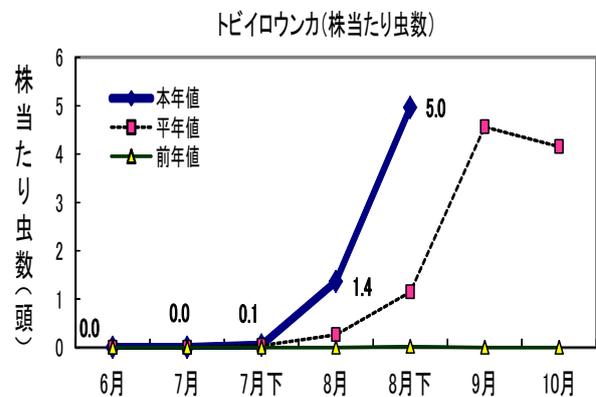


図2 株当たり虫数の月別推移

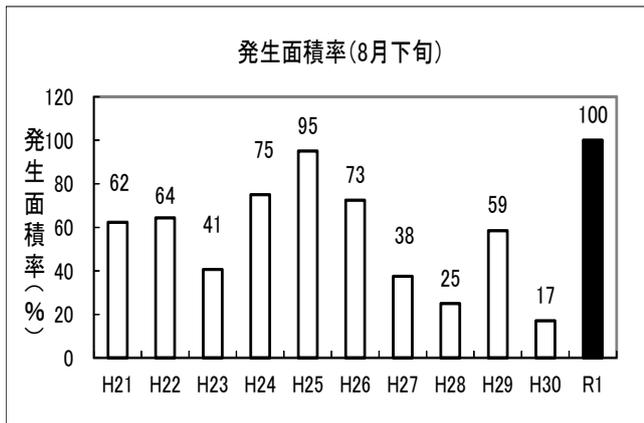


図3 発生面積率の年次推移

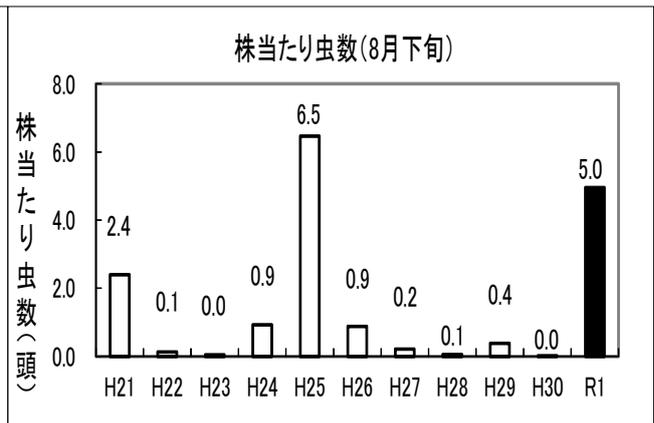


図4 株当たり虫数の年次推移

表1 地域ごとのトビイロウンカ発生状況

	調査地点数	発生面積率 (%)	株当虫数 (頭)	短翅型雌成虫の株当虫数 (頭)
県北	18	100	4.1	0.3
東諸	5	100	2.5	0.3
北諸	10	100	3.7	0.1
西諸	8	100	9.9	0.6
県全体	41	100	5.0	0.3

4. 防除上の注意

- (1) トビイロウンカは水田に侵入後2～3世代増殖を繰り返し、急激な密度上昇により収穫期頃に大きな被害を及ぼす。第3世代の防除適期（幼虫期前半）は9月中旬以降になると予想されるが、これまで世代交代が繰り返されたことにより、ほ場内に全ての世代（卵～成虫）が確認されている。本田防除を行っていないほ場については、防除適期にかかわらず直ちに防除を行う。
- (2) 本田防除を行ったほ場においても、ほ場内に入って水稻の株元を確認し、トビイロウンカの密度が高い場合は防除適期にかかわらず直ちに追加防除を行う。
- (3) トビイロウンカは株元付近に生息しているが、薬剤の種類や散布方法によっては薬剤が株元まで到達せずに十分な防除効果が得られない恐れがある。防除を行う際はほ場内に水をためてトビイロウンカを上を押し上げ、薬剤が本虫にかかるように丁寧な散布を行う（ただし、薬剤ごとの総使用回数や使用時期（収穫前日数）に注意すること）。
- (4) 粒剤の施用も効果的である。粒剤を施用する際は湛水状態で田面に均一に散布し、4～5日間は湛水状態を保つ。散布後7日間は落水やかけ流しをしない。粒剤の効果については図5を参照。

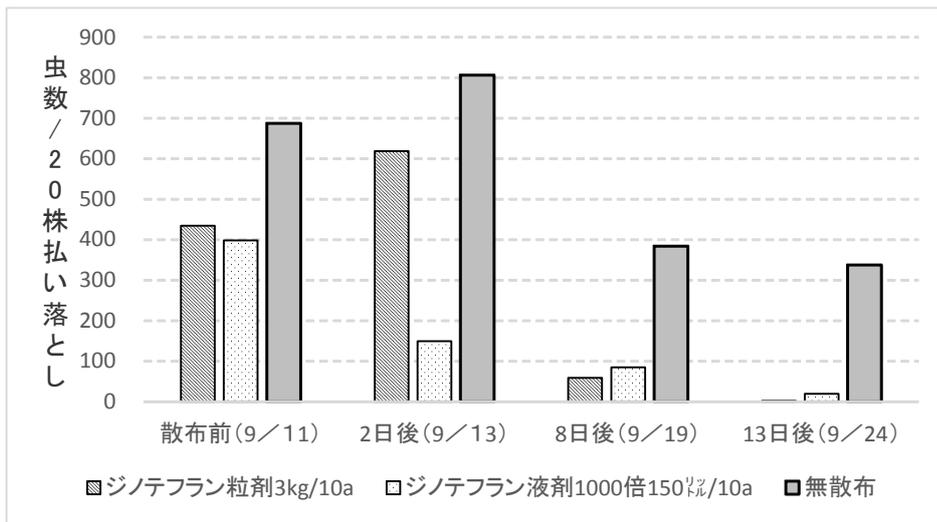


図5 トビイロウンカに対するジノテフラン粒剤および液剤の防除試験例

〔 品種：ヒノヒカリ、移植：平成25年6月13日、出穂：8月25日、各薬剤処理日：9月11日
 粒剤は手散布、液剤は鉄砲ノズルにより散布、宮崎県総合農試で実施 〕



図6 坪枯れの発生状況（8月29日撮影）



図7 株元を加害するトビイロウンカ（8月29日撮影）

- その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病害虫防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- 6月1日から8月31日の3か月間、農薬危害防止運動を実施しています。ラベル表示の内容を十分に確認し、農薬使用基準を守って農薬散布を行い、危害防止に努めましょう。

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター

担当 黒木、松浦

TEL:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127

ホームページ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail: byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp